

# 千葉市、柏市の交通バリアフリー基本構想等に関する市民参加の取り組み Public Involvement in Traffic Barrier-free Plan in Chiba City and Kashiwa City

伊藤将司\*\*

By Masashi ITO\*\*

## 1. はじめに

平成12年の「交通バリアフリー法」施行以降、全国で交通バリアフリー基本構想の策定の取り組みが始まっている。交通バリアフリー基本構想策定においては、市民参加、当事者参加が重要な要素となるが、自治体の都市規模、予算規模、取り組み姿勢、参加行政の経緯等の実状に応じて、各自治体で様々な対応が行われているものと考えられる。

本稿では、筆者が関わった千葉市、柏市の交通バリアフリー基本構想等の策定における市民・当事者参加の事例を紹介し、両市の取り組みの特徴を整理するとともに、市民・当事者参加の留意事項を考察する。

## 2. 千葉市、柏市の基本構想の取り組み概要

### (1) 千葉市の取り組みの概要

千葉市は平成13年11月に基本構想を策定し、現在各種特定事業計画を策定している段階である。

基本構想は、対象となるすべての旅客施設を特定旅客施設と位置づけ、その周辺のほとんどの地区を重点整備地区に設定している。

市民・当事者参加は、基本構想策定段階においては、主に意見交換会を、道路特定事業計画策定段階においては、意見交換会、アンケート調査、バリアフリー点検ワークショップを実施している。表-1に千葉市の取り組みの概要を示す。

\*キーワード：交通バリアフリー、基本構想、市民参加

\*\*正員、株式会社福山コンサルタント 東日本事業部

(東京都江東区亀戸2-25-14立花アネックスビル

TEL:03-3683-0722 FAX:03-3683-7212

E-mail:masa.ito@fukuyamaconsul.co.jp)

表-1 千葉市の取り組みの概要

概要
人口：895,609人(H13) 面積：272.08km <sup>2</sup> 旅客施設数：49駅 基本構想策定年次：平成13年11月
基本構想の内容
バリアフリーの目標 ・バリアフリーの6つの目標 ・基本構想の目標年次：2010年 重点整備地区及び特定経路 ・重点整備地区：16地区 ・特定旅客施設：29駅 ・特定経路：80経路 実施する具体的な事業 公共交通特定事業、道路特定事業、交通安全特定事業、その他事業
検討体制
策定委員会(局長、部長級) 幹事会(課長級) 策定に関わる協議会(関係事業者) 事務局(建設総務課：ただし随時他の課と協力して運営)
市民・当事者の参加
基本構想策定時 意見交換会を2回実施(各種団体、NPO等) 交通安全総点検結果(既存調査) 道路特定事業策定時(策定中) アンケート調査 バリアフリー点検ワークショップ 意見交換会 交通安全総点検(既存調査)

### (2) 柏市の概要

柏市は現在、基本構想を策定中であり、市内の旅客施設をすべて特定旅客施設として位置づけ、その周辺の7地区を重点整備地区に設定することを基本に調整中である。

市民・当事者の参加は、策定委員会への出席、福祉団体等へのヒアリング、バリアフリーワークショップにより行われている。また、素案策定の段階でパブリックコメントの実施を行った。表-2に柏市の取り組みの概要を示す。

表 - 2 柏市の取り組みの概要

概要
人口：324,805人（H13） 面積：72.91km <sup>2</sup> 旅客施設数：8駅 基本構想策定年次：策定中
基本構想（素案）の内容（策定中）
<p>バリアフリーの目標案</p> <p>基本理念を「街にでかけよう」- いつでも、どこへでも - とし、市民の意識づくり、環境整備の2つの柱を基本に目標を設定。</p> <p>基本構想の目標年次：2010年</p> <p>重点整備地区案及び特定経路案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点整備地区：7地区</li> <li>特定旅客施設：8駅</li> <li>移動経路：検討中</li> </ul> <p>将来的に新駅の2地区を追加予定</p> <p>バリアフリー施策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定事業：公共交通特定事業、道路特定事業、交通安全特定事業、その他事業</li> <li>施設（建物）のバリアフリー施策</li> <li>ソフト施策</li> </ul> <p>意識づくり、外出支援、商店街の環境整備、防犯や防災等に関するソフト施策</p>
検討体制
策定委員会（学識経験者、各種団体、市民代表、事業者等） 幹事会（庁内部長級） 部会（施設部会、福祉部会） 事務局（企画調整課）
市民・当事者の参加
策定委員会（学識、各種団体、市民代表、事業者等） 福祉団体等へのグループヒアリング：6団体 バリアフリーワークショップ2回 広報、インターネットによる策定経過の報告 パブリックコメント

### 3. 千葉市の市民・当事者参加

#### (1) 市民・当事者参加の概要と特徴

基本構想策定段階において、福祉団体の代表や市民代表の参加による意見交換会を開催して、基本構想への要望を把握している。

また、道路特定事業計画の策定段階において、バリアフリー経路の再整理、事業内容の再整理、整備優先順位等へ意向を反映させるため、同様の意見交換会、基本構想の内容に関するアンケート調査、千葉都心におけるバリアフリー点検ワークショップを実施している。ワークショップではNPOも運営に参加し、ルートや駅の点検、市民が主体的に実施できる施策の検討等を行った。

さらに今後、各経路を整備する段階において、バリアフリー点検、基本設計の検討、整備後の評価等を必要に応じて市民・当事者参加で行う方向で検討中である。

このように千葉市では、基本構想を実現していく

特定事業計画策定、さらには事業実施の段階において、市民・当事者参加を継続的に位置づけるよう検討を行っている。

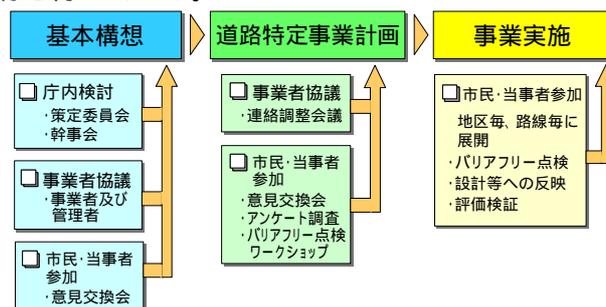


図 - 1 検討の経緯と市民・当事者参加の取り組み

#### (2) 市民・当事者参加の個別内容

##### (a) 意見交換会

基本構想策定段階に、高齢者・身体障害者の各種団体との意見交換を実施し、素案の提示等を行いながら、特定旅客施設、特定経路、事業内容について意向把握を行っている。

具体には、特定旅客施設の追加、エスコートゾーン設置の考え方の整理、バリアフリー点検ワークショップの実施等の意見が出されている。

なお、意見交換会は道路特定事業計画策定時においても継続中である。

##### (b) アンケート調査

広く一般市民からバリアフリー施策の内容や特定経路に関する意向を把握し、道路特定事業計画に反映していくために実施された。

アンケートは基本構想概要版とともに配布し、郵送で回収された。さらにバリアフリー点検ワークショップ時においても高齢者・障害者の方を中心に同様のアンケート実施された。有効回答総数は187票である。以下に主な結果の概要を示す。

##### 日頃利用する施設について

アンケート全体では、商業施設、勤務先・通学先が上位を示すが、高齢者・障害者では公共施設、官公庁・福祉施設が多い。

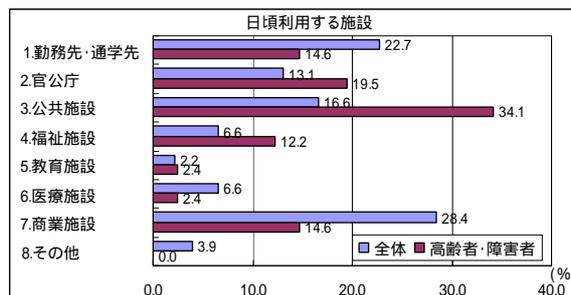


図 - 2 日頃利用する施設

## 整備して欲しい内容

整備して欲しい内容として、「歩道の段差解消や平坦性の確保」、「放置自転車の取り締まり」、「歩道の確保」等の要望が上位に上げられている。

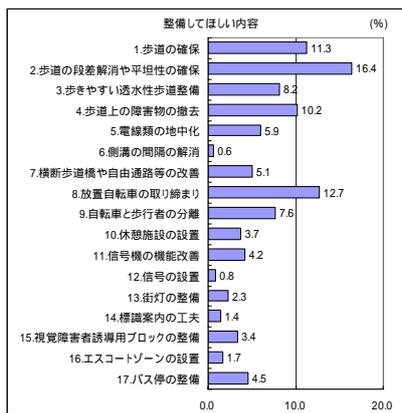


図 - 3 整備してほしい内容

### (c) バリアフリー点検ワークショップ

個別課題を道路特定事業計画に反映させるとともに、参加者の互いの立場を理解しながらバリアフリーの意識を向上させていくために実施された。

また、ワークショップの運営にNPOの参加を促すことにより、今後の独自の市民活動への展開を期待している。概要は以下の通りである。

開催場所：千葉都心地区  
 参加者：障害者、高齢者、一般市民、商店主、警察、鉄道事業者、市、国職員など関係機関（参加者数84名）  
 内容：バリアフリー点検、まとめ（良かった点・悪かった点）、バリアフリー実現に向けた提案  
 意見の一例：（住民が主体にできそうなこと）  
 自転車の整理や清掃活動、自転車を放置しないこと、車椅子介助等の手助け、マナーの向上、住民同士の話し合い、障害者のネットワークを使った情報伝達 etc.

## 4. 柏市の市民・当事者参加

### (1) 柏市の市民・当事者参加の概要と特徴

策定委員会の委員に市民・当事者代表を入れ、構想の決定手続きの段階でも関与している。

福祉団体等へのヒアリングでは、当事者の移動手段、駅を經由して立ち寄る施設、外出時に困ること、対応要望等を把握している。

また、バリアフリーワークショップを2回実施し、第1回目は市内各駅とその周辺のバリアフリー点検と疑似体験、第2回目は柏中心部において、路上障害物を整理した経路の評価を行うための点検とバリアフリープラン検討を行っている。両方のワークショップともNPOがその運営に参加している。

さらには、市民の参加のもと、市民ができるソフト対策を中心にとりまとめる、心のバリアフリー小冊子の作成を検討予定である。

柏市では基本構想策定時の市民・当事者参加をきっかけとして、バリアフリーのソフト施策等を市民と一体的に継続的に行えるよう検討している。

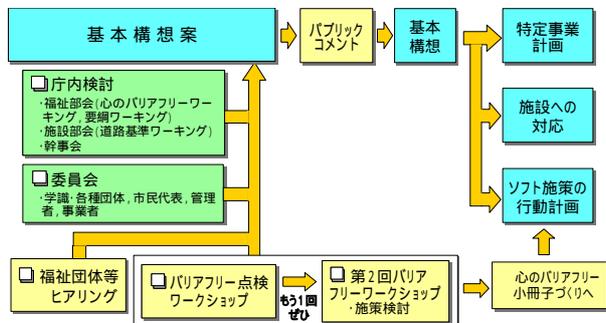


図 - 4 検討の経緯と市民・当事者参加の取り組み

### (2) 柏市の市民・当事者参加

#### (a) 福祉団体等へのヒアリング

福祉団体等の6団体に、団体別のグループヒアリングを実施し、当事者の移動手段、駅を經由して立ち寄る施設やルート、外出時に困ること、対応要望等を把握した。

ヒアリングの事前に各団体と内容確認を行っていたため、事前に意見集約を行っている団体もあり、多くの方の意見を把握することができた。

主な内容は以下の通りである。

#### 日頃よく使う経路及び施設

- ・駅から市役所、福祉施設、病院
- ・柏駅周辺の市街地全体（買物によく利用）
- ・地区の拠点となる公共施設周辺（但し、家からの利用が多い）

#### 外出時に非常に困ること

対象	非常に困る問題
共通項目	・歩道上の障害物や段差 ・歩道上の自転車の通行
肢体不自由者	・トイレの不備 ・エレベーターの不備 ・人の視線
聴覚障害者	・視覚情報の欠如
視覚障害者	・点字ブロックの不備

#### (b) バリアフリーワークショップ

##### 第1回ワークショップ

目的：全駅周辺のバリアフリー点検と悪いところ、悪いところの整理  
 開催場所：柏市内のすべての鉄道駅とその周辺エリア

参加者：高齢者、障害者、一般市民（公募）、行政  
計 117 名

#### 主な意見

- ・評価が高い項目  
エレベーター・エスカレーター・スロープ、駅員や一般の方のやさしさ、整備された歩道（段差、急勾配、広い歩道、障害物がない）
- ・評価が低い項目  
歩道上の障害物、歩道の段差・傾斜、歩道の凸凹やすき間



### 第 2 回バリアフリーワークショップ

目的：路上障害物整理後の点検とバリアフリー施策の提案

開催場所：柏駅前通り及びその周辺エリア

参加者：高齢者、障害者、商店主、一般市民（前回参加者等）行政 合計 48 名

#### 主な意見

- ・思いやりのある看板や商品の置き方を障害者と商店街の話し合いの場をつくる、協力してくれる優良店を表彰する
- ・人と自転車（放置自転車）の共存を目指して自転車を放置しない意識を高める看板やシール、マナー冊子づくり、社会実験で行った自転車整理のための黄色いラインを継続する
- ・市民参加による取り組みの充実  
商店街、ボランティア、NPO 等の協力体制づくり、小中学校の総合学習との連携



なお、ワークショップの概要、基本構想案はホームページで公開している。

(<http://www.city.kashiwa.chiba.jp>)

## 5 . 市民・当事者参加における留意事項

### ( 1 ) 千葉市の市民・当事者参加の特徴

重点整備地区を 16 地区すべてに指定したことによって、次のことが言える。

- ・地区を限定せず、積極的に多くの経路指定をしている
- ・経路、駅広の整備優先順位が全体で評価できる
- ・10 年間のバリアフリー事業の全体が把握できるため、他事業を含めた調整を図りやすい
- ・幅広い市民・当事者の参加が行われていない  
道路特定事業計画、事業実施で対応 ⇨ 検証・改善

この市民・当事者参加のフォローとして、以下のような継続的な市民参加を実施・検討している。

- ・事業実施に向けて、市民・当事者参加のルール化を検討 ⇨ 基本的に全地区で市民・当事者参加を実施予定
- ・他事業への展開を検討中（参加した NPO も関連して）
- ・NPO の独自活動の期待

### ( 2 ) 柏市の市民・当事者参加の特徴

柏市の場合、最初のワークショップが好評で、市民からの要望もあったことから、施策検討のワークショップを実施した。その結果、ハード施策はもちろんであるが、ソフト施策の重要性と市民の関わり方が再認識された。ソフト施策の展開を行っていくため以下の取り組みが実施もしくは検討されている。

#### ( 早急な取り組み )

- ・心のバリアフリー小冊子づくり  
市民や商店主などが対応できることを小冊子にまとめて配布（市民・当事者参加によって作成）
- ・ソフト施策の行動計画を策定
- ・NPO の独自活動の期待（商店主、市民、当事者の交流等）



ソフト施策を中心に継続的市民・当事者参画へ

### ( 3 ) 市民・当事者参加の留意事項

市民や当事者意向は、道路や駅等のハード整備の充実とともに、路上障害物の撤去、市民のやさしい声かけ等ソフト施策への対応の期待が高い。

交通バリアフリー基本構想における参加は、市民や当事者のニーズを的確に把握し、計画に反映していくことはもちろんであるが、市民の意識向上を図り、市民主体の施策に発展させることも重要である。

千葉市、柏市ともに、今回の参加の場は NPO が関わるきっかけとなっており、市と NPO の関係の深まりと NPO 活動の地域における展開が期待できる。また、両市とも参加を継続させるための仕組みを重要視していることも注目すべき点である。

これらの取り組みに見られるように、交通バリアフリー基本構想における参加は、市民意識の向上や市民主体のソフト施策へ発展させるように、市民・当事者参加の継続性を視野に入れながらプロセス設計をつくっていくことも重要な点であると言える。